

研修機関	株式会社 野桑組
研修期間	平成18年11月6日～12月5日
所属・氏名	中能登町立鹿島中学校 前 正人

I 研修目的

- ・民間企業での研修を経験することによって社会的視野を広げるとともに、社会を構成する一人の人間として、教員としての資質の向上に努める。
- ・企業の「ものづくり」に対する姿勢、それに伴う人材の育成について学び、これからの学習指導、生活指導にいかす。

II 研修内容

1 オリエンテーション

- ① 研修の確認（期間、就業時間、提出書類など）
- ② 会社の概要説明
 - ・企業組織、品質方針、安全衛生管理対策などについての説明

2 現場における研修

◇ 一般国道 249号 道路改良工事（改良1工区） … 七尾市国分町 地内
《作業内容》

- ① 集水桝などのコンクリート製造物の型枠組立外しおよび型枠の分解
- ② 現場内の土砂運搬（2tトラック）
- ③ 再生砕石の運搬（2tトラック）
 - ・産業廃棄物中間処理業（榊山口から）
- ④ モルタルの運搬
 - ・能登生コンクリート工業から
- ⑤ のり面、犬走りのコンクリート打ちの準備、片付け
- ⑥ ロープ張り、除草、ラス材（のり面の防草用ネット）の取り付け
- ⑦ のり面および犬走り（コンクリート打ち）の目地材の取り付け
- ⑧ 歩道路床の調整（土砂のすきとり）
- ⑨ 歩道の砕石均しおよび転圧、不陸整形
- ⑩ 測量補助
- ⑪ 現場敷地範囲のロープ張りおよび機材（ライト）、バリケードなどの設置補助
- ⑫ 側溝、縁石、車歩道境界（砕石、モルタル、据え付け）の作業を見学
- ⑬ のり面、犬走りのコンクリート打ち 見学

3 工事現場の巡回

◇現場のパトロール

現在、作業が行われている現場を巡回し、概要説明を受けました。さまざまな種類の現場があり、安全・環境などに配慮した工程のもと、作業が進められていました。巡回した現場は以下の通り。

- ・主要地方道 七尾能登島公園線 緊急地方道路整備工事（橋梁補修）（奥原跨線橋）
- ・17災275号 二級河川 二宮川 河川災害復旧工事

- ・能登有料道路（縦貫）道路改良（ゆずりレーンⅣ期）受託工事（5工区）
- ・一般県道 七尾鳥屋線 いしかわ広域交流 幹線軸道路整備工事
- ・平成18年度 石塚川改修関連 土地改良事業 新庄地区 排水路工事（完了）
- ・能登維持管内道路維持 その1工事
- ・七尾駅前第二地区第一種市街地再開発事業 七尾駅前広場基盤整備工事（その2）
- ・七尾市立御祓中学校バリアフリー改修工事（エレベーター、スロープ、トイレ）

Ⅲ 研修成果

1 「ものづくり」への姿勢（社会の根幹であること）

私たちが暮らす社会において、日々、さまざまな「もの」がつくられています。私は、「ものづくり」こそがこの社会において重要な要素の一つであると考えています。

人類は、その進化の過程で、自分たちの暮らしにとって必要な道具や便利な「もの」を自らの手で作り出し、生活を豊かにし、潤いを与えてきました。多分に漏れず、日本も「ものづくり」を中心にした「高度経済成長」という時期を基盤として発展し、現在に至っています。しかし、今日の社会においては、「ものづくり」への信頼性がさまざまところで揺らぎ始めています。そこで、実際に建設業の現場を体験し、「ものづくり」への姿勢、厳しさを学び、これからの学校現場で少しでもいかせることがあればと思います、こちらの企業で研修をさせていただこうと思いました。

建設業ということで、外での作業になるため、研修期間の11月～12月の1ヶ月の天候がとにかく心配されました。案の定、研修期間中の半分以上が雨、中には霰が混じったこともあり、そのような中での作業はとても厳しく、毎日、現場で作業されている従業員の方々に頭が下がる思いでした。

研修では、現場監督さんの指示のもと、安全に注意しながら作業を行いました。一般国道の改良工事（藤橋バイパス）で、側溝や集水桝の取り付け、縁石や歩車道の境界の据え付けなどを行いました。実際に行った作業は、トラックで土砂や砕石の運搬をしたり、歩道路床の調整（土砂のすきとり）および転圧、歩道の砕石均しおよび転圧で、従業員の方に助けていただいていた行いました。

研修を通して感じたことは、「ものづくり」に対して厳しさとこだわりをもって取り組んでいることでした。例えば、歩車道の境界を据え付ける工程において、砕石工、モルタル工、境界の据え付けという各工程で「mm単位」の仕事をきっちり行い、よりよいものをつくらうとする姿勢が見られました。工程の一部ですが、私たちの生活に欠かすことができない道路が、このような工程のもとでつくられていくことを知ることができ、そして、ほんのわずかですが関わることができ、貴重な経験となりました。

2 コミュニケーションの大切さ（工程確認、仕事の段取り）

現場監督さんとの話の中で、「最近の子たちは、あんまりしゃべらんね。学校でもそんな子が多いがね。」ということを言われました。この話から、自分の学校でもそのような生徒がふえてきているな、また、授業中、わからないことや戸惑ったとき、自分から進んで聞いたりする生徒も少ないなと思いました。もし、生徒がそのような場面にあつたらどのように対処したらよいかという「コミュニケーション能力」を身に付けることの重要性を再認識し、学校生活のあらゆる場面で、相手を意識し、自分の考えを自分の言葉で表現する場面設定をして実践していかなければならないと痛切に感じました。

また、同時にこれまでの私の研修への取り組みについてどうであったか考えてみました。現場での作業は、日々の仕事内容が天候によって変わり、どのように仕事を進めていくかがとても大切です。私は、従業員の方に迷惑をかけないようにという気持ちが強く、また、

戸惑いがあり、言われたこと以外はできていませんでした。現場監督さんから言われた言葉で、これまでの消極的な取り組みでは駄目だと思い、「待っているのではなく、もっと自分から進んで聞いてできる仕事をしよう」という気持ちになりました。そして、研修期間の後半は、自分にできることは何かを進んで聞いて作業に取り組むように心がけました。

3 プロとしての意識

現場では、図面に示された工程、寸法に仕上がるように作業が進められていきます。一人ひとりが自分の持ち場に責任をもち、共同で仕事を行います。私が行った工程に、歩道路床の調整（土砂のすきとり）および転圧、砕石均しおよび転圧がありました。この工程では、まず、据え付けされた歩車道境界上面から一定の高さまで土砂をすきとり、その後転圧（機械で地面を固く押し固める）して図面に示された高さにします。地盤の状況を考え、土砂をすきとり、転圧後にどの程度、低くなるかを想定して作業を行っていきます。作業を一緒にさせていただいた従業員の方が、「これだったら、□cm下がるから、これくらいでいい」ということを言われました。実際に、土砂のすきとりをして転圧後、図面の高さに仕上がっていました。そして、次の工程の砕石を敷く作業でも、砕石の種類などによってどのくらいの高さで砕石を敷いていけばよいかについての的確な指示を出していただきました。転圧後は、一部手直しをして図面にあった形に仕上がりました。

わずかな工程ですが、プロとしての鋭い目と意識をもった仕事にとっても驚くと同時に、私たち教員も「教えるプロ」としての自覚をもち、指導にあたっていかなければと思えました。

IV 今後の課題

この研修は、今まで経験したことがない仕事ということで、見るもの、聞くことすべてが初めてでとても不安でしたが、ご指導いただきました皆さんのおかげで、1ヶ月間を無事終えるとともに貴重な体験をさせていただきました。何もわからない不慣れな私に、適切な声かけをいただき、生徒と同じ「学ぶ者の気持ち」を思い出し、励ましのことばがいかに大切かを感じました。

また、「コミュニケーション能力」を高めることの重要性についても考えさせられました。困難な場面にぶつかったとき、黙っているのではなく、自ら進んで相手に働きかけ解決できる能力を身に付けることが大切であることを痛感しました。今後の教育活動において、これらのことを肝に銘じ、実践していきたいと思えます。

V 終わりに

最後になりましたが、長期にわたり受け入れていただいた株式会社 野桑組の皆様、現場においてご指導いただきました従業員の方々に心より感謝申し上げます。また、このような貴重な研修の機会を与えて下さった石川県教育委員会、中能登町教育委員会、学校長をはじめ教職員の皆様に感謝致します。